

校訓:「創造」「根気」「協力」 教育目標:「ゆたかにきずき あしたをになう ～心やさしく おおらかに～」



野中清水



仙北市立神代中学校 学校報
No.51 令和4年10月31日(月)

11月1日は あきた教育の日

明日、11月1日は、「あきた教育の日」です。これは、秋田県教育委員会が、「県勢発展の原動力は人であり、人は財産である。その『人』づくりは教育が担っていくものである。このため、県民一人ひとりが教育に関心を持ち、また、学校、家庭、地域、企業などが連携・協力しながら子どもたちを育てていくという共通の認識に立って、教育立県をめざすために力強い教育を推進していく必要がある。子どもたちがやがて、県内外で秋田の発展を支える「人」となることを願い設けました。この機会に、ふるさと秋田について考えてみたり、自分の将来について考えてみてはいかがでしょうか。



県連合PTA研究大会 美郷大会開催



30日(日)、今年度の秋田県連合PTA研究大会美郷大会が、「人と人とのつながり 子どもたちの未来を拓く PTA活動」を大会主題に行われました。本校からは、保護者を代表してPTA副会長様にご参加いただきました。ありがとうございました。大会では、コロナ禍のため協議会は実施せず、2つの記念講演を行いました。

その中の1つ、親業インストラクターの鈴木聡子氏による「親業～子どもの対話力を高める3つのコツ」について紹介いたします。

内容は、家庭内での親子のコミュニケーションを通して子どもの対話力を高めていきましょうというものでした。その中で特に強調されていたのは、親子のコミュニケーションをはばむ12個の障害についてでした。その12個とは、「命令」「脅迫」「提案」「講義」「同意・賞賛」「侮辱」「分析」「同情」「尋問・質問」「ごまかし」。これらは、どれも親から子どもへの一方的な話し方になってしまい、コミュニケーションが取れないというものでした。会話＝コミュニケーションではなく、お互いに理解し合っこそコミュニケーションになるということをお話いただきました。では、どうすればよいのか。親と子どもの心の架け橋を築くための3つのコツを紹介いただきました。その3つとは、①子どもが悩んでいるとき(弱気な言葉等が出たとき)、子どもが自分で解決できるよう手助けをする。②親が困ったとき、親の気持ちや考えを率直に伝える。③お互いの欲求が対立しているとき、子どもと親が納得していくように解決すること。これらのコツを活かして、一方的ではない、相互理解の対話で誤解のないコミュニケーションをすることが大切であるとのことでした。これらのコツは、親と子どもに限らず、大人同士、生徒と教師、生徒同士などすべての場面で当てはまることだなと感じた次第です。

冬囲い 始まる

11月に入ります。学校では、降雪に備え冬囲いに取りかかりました。各ご家庭でもこのあと行うことと思いますが、作業中の事故等には十分な注意が必要です。

